

経営比較分析表（平成29年度決算）

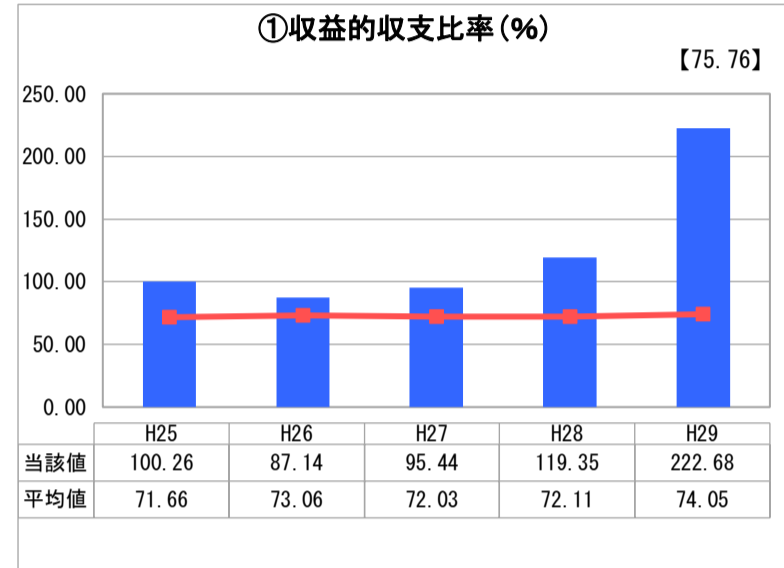
福井県 勝山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	0.51	2,538	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
23,756	253.88	93.57
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
121	0.18	672.22

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【】	平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



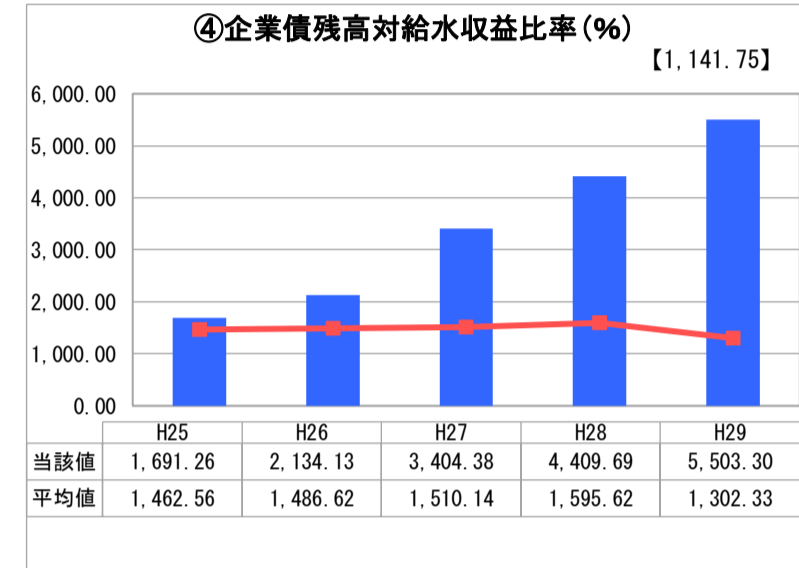
「単年度の収支」



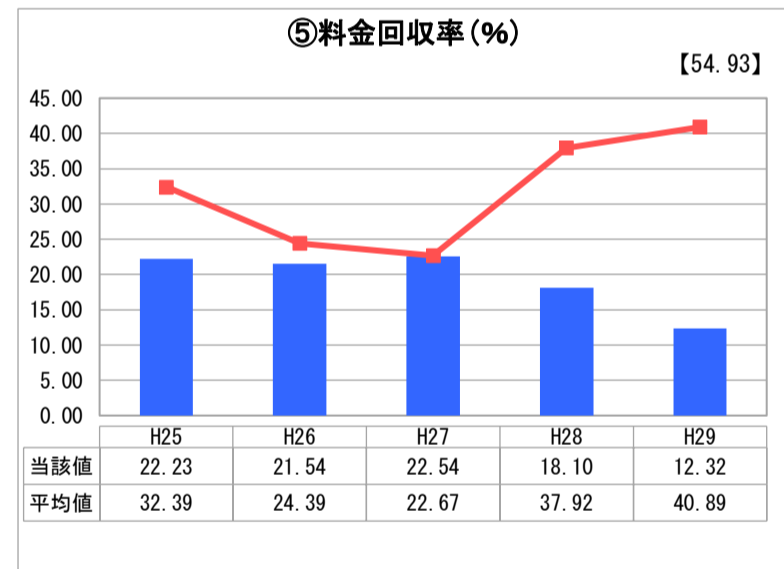
「累積欠損」



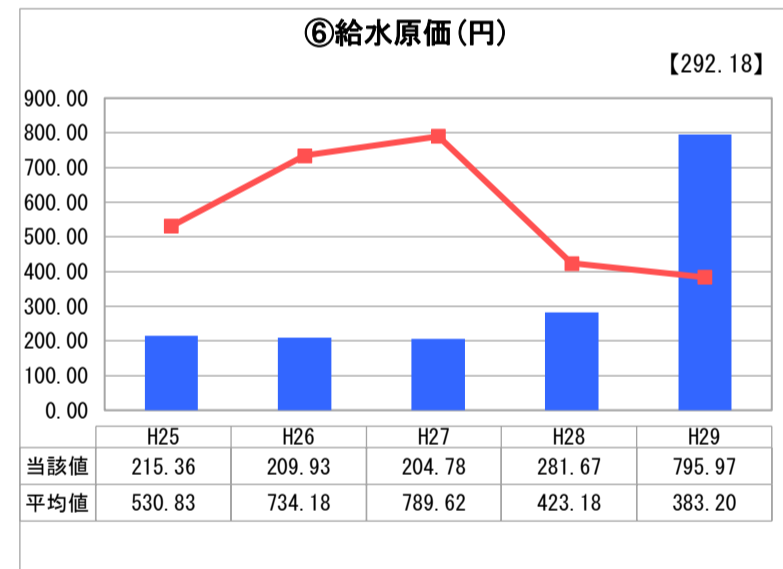
「支払能力」



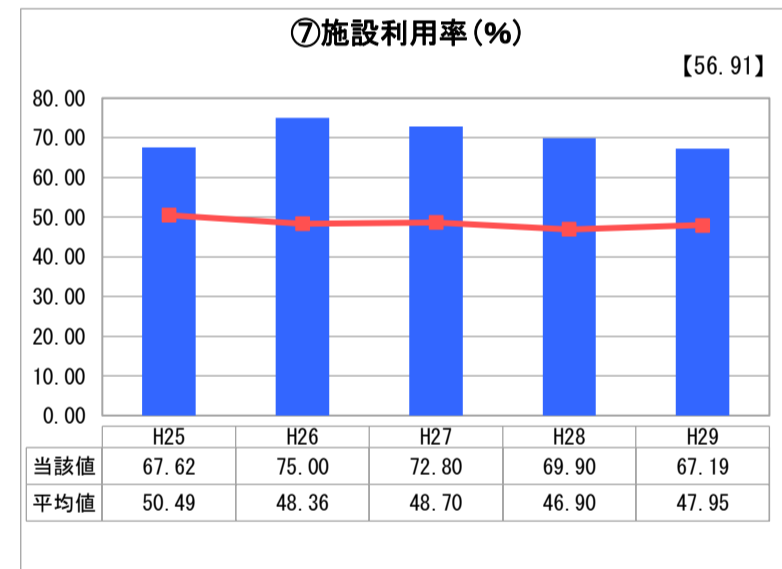
「債務残高」



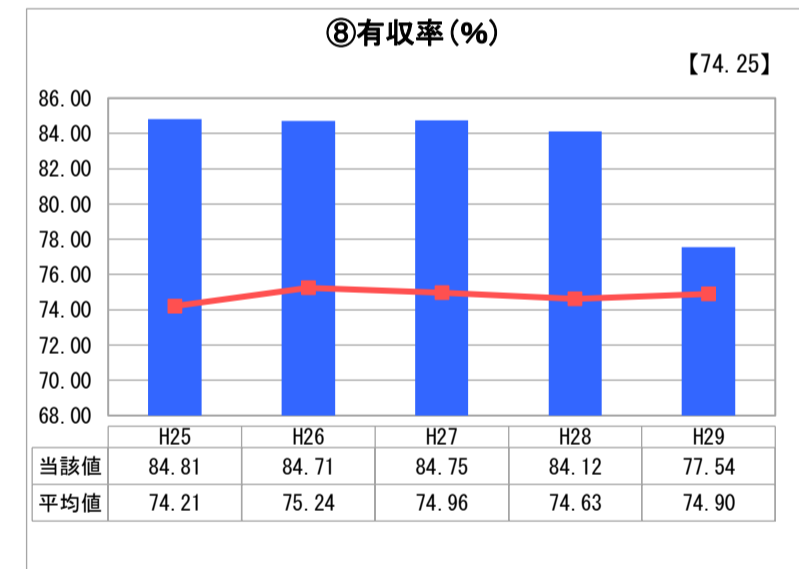
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

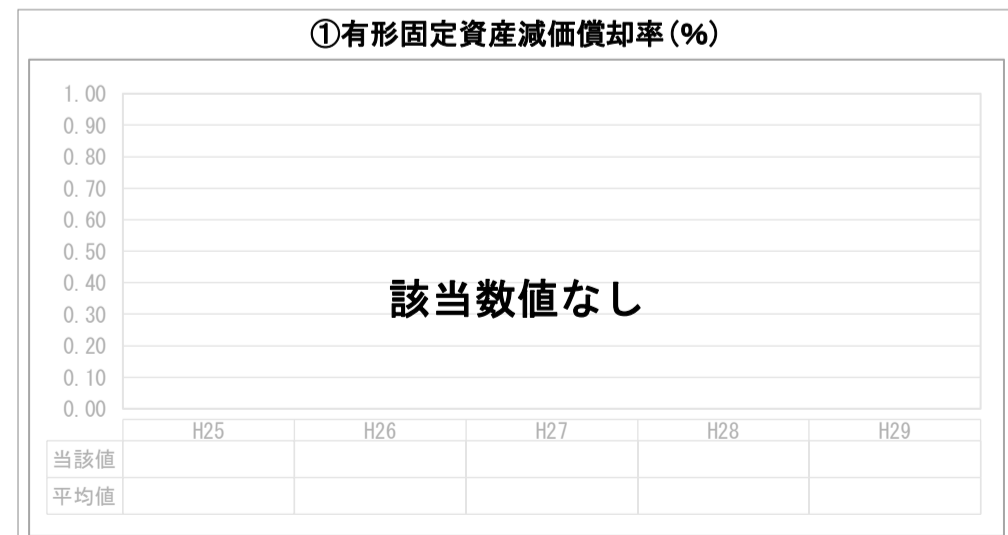


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

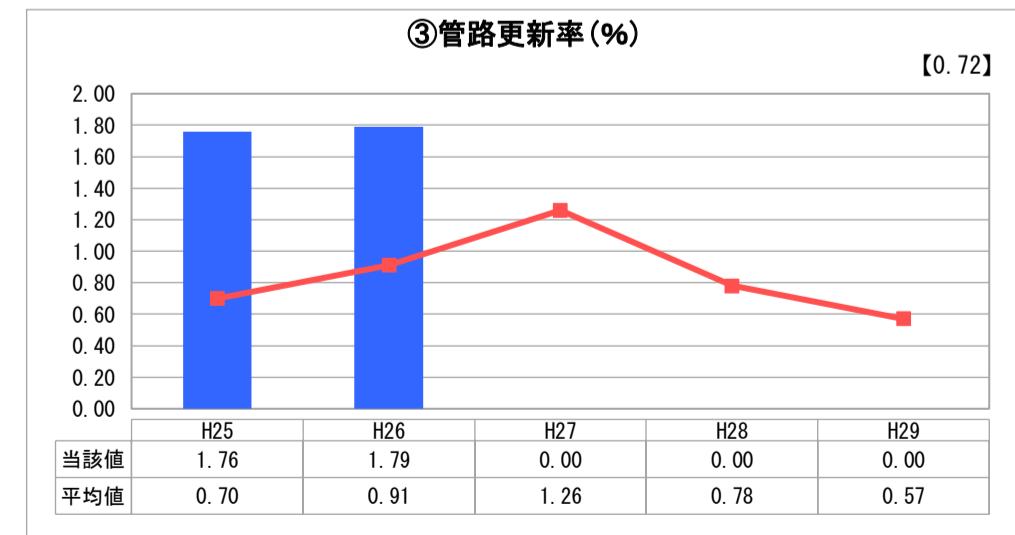
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

勝山市水道事業への統合事業を推進しており、施設整備が完了した地区から順次統合している。施設整備にかかる財源は主に国庫補助金及び起債となっているが、先述のとおり整備完了した地区が簡易水道ではなくなっていくため、給水収益に対する企業債残高の比率は増加傾向となり、給水原価は上昇し、料金回収率も低下している。平成29年度末に統合事業を完了し、平成30年度からは全ての簡易水道は水道事業へ統合される。

2. 老朽化の状況について

近年実施した管路更新は、すべて水道事業への統合にかかる施設整備の一環となっている。また、過去3か年度においては管路の整備は行っていない。なお、管路の法定耐用年数は経過していないものの、耐用年数が近づいていることから、統合後の水道事業において、平成30年度にアセットマネジメントによる長期的な更新計画を立て、老朽管の布設替を順次実施していく。

全体総括

統合が進んでいることで、料金収入は地区単位で減少していく一方、その整備費が膨らんでいるため、簡易水道事業会計単体で見ると、経営状況は悪化している。平成29年度末には全地区の統合を完了し、平成30年度からは全ての簡易水道が水道事業へ統合される。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。